神の平和

「見よ。わたしはこの町の傷をいやして直し、彼らをいやして彼らに平安と真実を豊かに示す。」(エレミヤ書33:6)

平和の定義

平和を示すヘブル語は「シャローム」である。このことばは戦争や争いや緊張がないという状態を示すだけではない。「シャローム」の基本的な意味は調和(一致、協力、友好)、健全、善意、しあわせ、人生のあらゆる領域での満足などである。

(1) 平和は争い合っていた国の間の平和協定のような穏やかで滑らかな国際関係のことである(Ⅰサム7:14, Ⅰ列4:24, Ⅰ歴19:19)。

(2) 平和はまた社会的経済的に繁栄した時期に体験する、落着いて安定した気持(平安)のことでもある(Ⅱサム3:21-23, Ⅰ歴22:9, 詩122:6-7)。

(3) 平和はまた家庭の中(箴17:1, Ⅰコリ7:15)と外(ロマ12:18, ヘブ12:14, Ⅰペテ3:11)の両方で体験する人間関係の一致と協力と満足のことである。

(4) 平和は人間の個人的な健全性としあわせ感、心配と恐れのない状態を意味する。これは自分自身のたましいの平安(詩4:8, 119:165, ⇒ヨブ3:26)、神との平和(民6:26, ロマ5:1)などと呼ばれる。

(5) 「シャローム」ということばは創世記1－2章では使われていないけれども、完全な調和と健全さのあった創造された世界の最初の状態を指している。天と地を創造されたとき神は世界を平和な状態に創造された。天地創造の健全性は「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった」(創世記 1:31)ということばに反映されている。

平和の崩壊

アダムとエバが蛇の声に耳を傾けサタンにだまされて禁断の実を食べたときに(創3:1-7)、神に対するその不従順によって罪(神への反抗と反逆と、神のことを考えないで自分勝手な道を行くこと)が入り込んだ。そして罪は天地創造のときの最初の調和した秩序と流れを破壊してしまった。

(1) そのときアダムとエバは神との関係の中で罪責感と恥ずかしさを初めて体験し(創3:8)心の平安を失った。

(2) エデンの園でのアダムとエバの罪は神との完全な関係を破壊した。それまでにふたりは神との深い個人的関係と親しい交わりを持っていた(⇒創3:8)。けれども罪を犯した後「主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した」(創3:8)。神と話合うのを楽しみに待つのではなく神の臨在を恐れるようになった(創3:10)。神との平和をふたりは自分勝手なにせの一時的楽しみと交換して失ったのである。

(3) アダムとエバの夫婦としての調和ある関係も破壊された。神がふたりと罪について話し始めたときアダムはエバを非難した(創3:12)。この種の緊張と争いは男と女との間に続くだろうと神は言われた(創3:16)。実際にこの種の人間関係の緊張が今や多くの社会的争いの原因になっていて、しかも当り前のことになっている。その社会的争いは家庭の中の争いと暴力(⇒Ⅰサム1:1-8, 箴15:18, 17:1)から国際的紛争や世界的な戦争にまで広がっている。

(4) 罪は人類と自然との間の調和と一致を奪ってしまった。エデンの園でのアダムの仕事は罪を犯す前は楽しみだった(創2:15)。それぞれの動物に名前をつけ、動物の間を自由に歩いていた(創2:19-20)。けれども堕落した(人間が最初に神に挑み神との関係が罪によって奪われたとき)後に与えられたのろいには、人間と蛇との間の怒りと憎しみ(創3:15)もあった。さらに人間の働きには汗と疲労ときつい肉体労働が加えられた(創3:17-19)。前には人類と環境の間に調和があったのに今では闘争と衝突があり、「被造物全体

が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしている」のである(→ロマ8:22注)。

平和の回復

神が造られた世界全体の平和としあわせが罪によって破壊され、その影響が全人類に及んだけれども、神は「シャローム」を回復しようと計画された。平和を回復する物語は神の御子イエス・キリストの生涯とメッセージそのものである。神は人間と神との間に平和を作るために主イエスを世界に送られた。主イエスは罪の赦しと罪からの自由、そして神との永遠の個人的関係を持つ希望を与えるために来られた。

(1) 世界の平和を破壊し始めたのはサタンなので、地上での平和を再び手に入れ回復するにはサタンの力を破壊しなければならない。事実、メシヤ(キリスト)が来られることについての旧約聖書の約束の多くは勝利と平和がやがて与えられるという約束でもあった。ダビデは神の御子が諸国民を支配すると預言した(詩2:8-9, ⇒黙2:26-27, 19:15)。イザヤはメシヤが「平和の君」として治めると預言した(イザ9:6-7)。エゼキエルはメシヤを通して神が成立させようとした新しい契約(終生協定)は「平和の契約」であると預言した(エゼ34:25, 37:26)。ミカもベツレヘムに生れる全世界を治める方の誕生を預言したときに「平和は次のようにして来る(「この人は平和となる」あるいは「これは平和である」とも訳せる)」(ミカ5:5, →「**キリストによって成就した旧約聖書の預言**」の表 p.1029)と言っている。

(2) 主イエスの誕生のときに天使たちは神の平和が今や地上に訪れたと伝えた(ルカ2:14)。主イエスご自身は悪魔の働きを打壊して(Ⅰヨハ3:8)、私たちの生活の中の平和を妨げる争いの障壁を崩すために来られた(エペ2:12-17)。そして弟子たちにいつまでも残る遺産として平和(平安)を残された(ヨハ14:27, 16:33)。主イエスはその死と復活によって霊の世界のサタンの力と権威の強い影響を取除いて、霊的平和を可能にされた(コロ1:20, 2:14-15, ⇒イザ53:4-5)。したがってイエス・キリストを信じる(キリストのメッセージと私たちのための犠牲を受入れ積極的に人生をゆだねる)とき、私たちは義とされ(神との関係が正常化され)、神との平和を持つことができる(ロマ 5:1)。キリスト者がほかの人々に伝えるメッセージは「平和の福音」と呼ばれている(使10:36, ⇒イザ52:7)。

(3) キリストが平和の君として来られたことを知るだけでは、平和を自動的に持つことにはならない。神との平和を体験するためには信仰によってキリストと一つになる必要がある。その第一段階は主イエス・キリストを信じることである。この「信仰」はただ単に知的に同意したり受入れたりすることではない。それは積極的に頼ることで、罪のためのキリストの犠牲を受入れ自分の人生の支配権をキリストの導きに任せることである。このようにキリストに応答するとき、その人は信仰によって罪が赦され義(神との関係の正常化)とされる(ロマ 3:21-28, 4:1-13, ガラ2:16, 「**信仰と恵み**」の項 p.2062)。平和の中に生きるためには信仰とともに神の指針を守り戒めに従わなければならない(レビ26:3, 6)。旧約聖書の預言者たちは「悪者どもには平安(平和)がない」と繰返し宣言している(イザ57:21, 59:8, エレ6:14, 8:11, エゼ13:10, 16)。神の平和を体験し続けるために、神は私たちに聖霊をくださった。聖霊は私たちの中に聖い性格を育て神の目的を実現してくださるけれども、それには神の平和も含まれている(ガラ5:22, ⇒ロマ 14:17, エペ4:3)。私たちは御霊の助けを受けてシャローム(平和、繁栄)を祈り求め(詩篇122:6-7, エレ29:7, →ピリ4:7注)、平和によって心を支配させ(コロ3:15)、平和を願い追い求め(詩34:14, エレ29:7, Ⅱテモ2:22, Ⅰペテ3:11)、ほかの人々と平和に過すように最善を尽さなければならない(ロマ 12:18, Ⅱコリ13:11, Ⅰテサ5:13, ヘブ12:14)。